



▲パネルディスカッションのようす

はまぼうを守るために

はまぼうサミットinあまくさ

はまぼうの生育地がある九州内の自治体が一堂に会してはまぼうの保全活動を考える、「はまぼうサミットinあまくさ」が7月20日、新和まちづくり協議会主催の「第2回はまぼう祭り」の最終日に合わせて、新和町民センターで開かれました。平成23年の宮崎県延岡市、同24年の長崎県西海市について、今回で3回目になります。本市をはじめ、西海市や福岡県糸島市の関係者、はまぼうの保全団体など120人が参加し、保全活動についての発表やパネルディスカッションを実施。参加者は、地域資源をいかしたまちづくりの重要性などについて理解を深めていました。

巧みな影絵劇に大歓声

影絵劇鑑賞会

8月2日、「影絵鑑賞会」が倉岳町の浦地区コミュニティセンターで開かれ、地区内外から親子など60人が来場しました。同地区振興会と地元の子どもの育成している“浦っ子クラブ”が実施したもの。観乗寺もぐら座（上天草市龍ヶ岳町）の小学生9人が、どろぼう3人組と女の子の出会いを描いた“すてきな三にんぐみとプリンセス”を披露。本格的で巧みな影絵劇に、大きな拍手と歓声が送られていました。



▲影絵を鑑賞する来場者

世代を越えて交流を楽しむ

多世代交流事業

栖本町内の老人会や親子など32人が参加して7月27日、「第2回多世代交流事業」が栖本地区コミュニティセンターで開催されました。参加者は、栖本地域婦人会による「栖本かっぱ物語」の人形劇を鑑賞したほか、老人会の皆さんといっしょに昔遊びを体験。水鉄砲をつくって遊んだり、お手玉やるたとりをしたりして、世代を越えて楽しそうに遊んでいました。



▲竹を切って水鉄砲を作る参加者たち

ブラジルを舞台に大健闘！

本渡中学校の生徒がロボカップジュニア世界大会に出場

7月21日から同24日、ブラジルで開催された「ロボカップジュニア世界大会」に、本渡中学校3年生の谷颯真さんと2年生の城下勇輝さんが日本代表として出場し、13チーム中、5位と大健闘しました。2人は、3月の全国大会で優勝し世界大会の出場権を獲得。谷さんは2年連続2回目、城下さんは初めて出場しました。

競技は、自作のロボットを使ってサッカーを行い、得点数を競うもの。谷さんは「試合運営などで悔しい思いもしたけど、がんばって取り組むことができた」、城下さんは、「ほかの国のチームとも交流ができ、楽しく試合ができた」と話していました。



▲自作したロボットを持つ城下さん(左)と谷さん(右)



▲試合のようす



▲放水を行う選手たち（牛深方面隊）

牛深方面隊が優勝！ 倉岳方面隊も健闘

熊本県消防操法大会

8月3日、「第30回熊本県消防操法大会」が人吉市の人吉スポーツパレス駐車場で開催され、本市から小型ポンプの部に出場した牛深方面隊がみごと優勝、倉岳方面隊も11位と健闘しました。競技は、操作開始からのが倒れるまでのタイムや正確な動作などを競うもので、県内の消防団から小型ポンプの部に26チーム、ポンプ車の部に15チームが参加。

牛深方面隊の指揮者の宇左美健志さんは、「皆さんの協力と家族の理解のもと、優勝することができた。2年後の大会は全国大会もあるので、全国制覇を目ざしてさらに訓練を重ねていきたい」と話していました。



▶倉岳方面隊